

秋も花と虫の季節です

秦野ビジターセンター



ツリフネソウ

いに訪れました。日があたるとねじれた蕾を開くリンドウ。ハナバチの仲間が蜜や花粉を求めて訪れます。そして細長い花のセキヤノアキチヨウジにはどんな虫が来るがくるのかな。と、そんなことを想像しながら、少しゆっくり歩いて、時々立ち止まって花咲く秋の山麓を楽しんでみませんか。(石川)



オトコエシ

照りつける日差しにも負けず力強く根を張り、夏を過ごした秋の草花たち。木や草の陰で暑さをしのいだ虫たち。涼しい風が吹くころに花は盛りをむかえ、それと同時に虫たちの動きもちょっと活発になります。

複雑な形をしたツリフネソウ。蜜は花の奥にあり、入り込んだ虫の背中に花粉をつけます。小さな花が集まって咲くオトコエシ。コアオハナムグリが安定した花の上で、夢中になって花粉を食べています。サカハチチョウも蜜を吸



リンドウ



セキヤノアキチヨウジ

【イベント案内】

箱根ビジターセンター

◆「バリアフリーで楽しむ秋の箱根」

内 容:体の不自由な方、ご高齢者、小さなお子さま、みなさんと秋を楽しみましょう!

開催日:10月2日(日)

場 所:箱根ビジターセンター周辺

◆自然に親しむ運動「金時山自然探勝登山」

内 容:箱根の山々でも人気の金時山に登り、自然とふれあいます。

開催日:10月7日(金)

◆自然観察会「箱根ジオパーク 富士箱根伊豆一望の箱根黒岳へ」

内 容:箱根火山・芦ノ湖の成り立ちを体感し、富士山・伊豆・駿河湾の展望を楽しみましょう。

開催日:10月29日(土)

※いずれの行事の問合せも「箱根ビジターセンター」まで。

秦野ビジターセンター

◆自然教室「丹沢の水と森のひみつ探検隊」

内 容:水源の森ってどんなところ?宮ヶ瀬周辺の沢や森で丹沢の森と水のひみつをさぐる!

日 時:11月12日(土) 10:00~15:30予定

活動場所:宮ヶ瀬湖畔園地周辺 参加費:一人800円(保険代等含む)

対 象:小学生とその保護者 30名(応募者多数の場合は抽選)

締切日:10月27日(木)必着

申込方法:往復ハガキに行事名、参加者全員の氏名・年齢・住所・電話番号を明記し、締切日必着で秦野ビジターセンターまでお送りください。

自然公園へでかけよう



環境省箱根ビジターセンター

〒250-0522 足柄下郡箱根町元箱根 164

Tel 0460-84-9981

<http://www.mm.jp.or.jp/HakoneVisitorCenter/>

県立秦野ビジターセンター

〒259-1304 秦野市堀山下 1513

Tel 0463-87-9300

<http://www.kanagawa-park.or.jp/hadanove/>

県立西丹沢自然教室

〒258-0201 足柄上郡山北町中川 867-2-9

Tel 0465-78-3940 Fax 0465-78-3940

<http://www.kanagawa-park.or.jp/nishitanzawa/>

開館日、開館時間等は各ビジターセンターまでお問合せください。

宮ヶ瀬ビジターセンターは、平成28年3月31日をもって閉館いたしました。

東海自然歩道 西丹沢自然教室

皆さんは東海自然歩道をご存知ですか？ 東海自然歩道とは東京の高尾から大阪の箕面^{みのお}を結ぶ、全長1,697kmの長距離自然歩道のひとつです。

この東海自然歩道の神奈川県コースは標高1,400mを超える「東海自然歩道最高地点」があるなど、山岳地を歩くコースが主となっています。

避難小屋もコース上に存在し、緊急時に利用すること



「甲相国境のみち」高指山からの富士山
(2015年9月30日撮影)

が出来ます。神奈川県ホームページを見ると、各種のモデルコースやみどころが紹介されています。

私のお勧めコースは富士山の眺望が楽しめる神奈川県境尾根の「甲相国境のみち」です。富士山のビューポイントはいろんな場所にありますが、高指山^{たかさすやま}から山中湖の奥に位置する富士山の眺望がお勧めです。富士山は朝方が雲が少なく、きれいに見えることが多いので、富士山のビューポイントは朝方通過するコース選択をされると良いと思います。

東海自然歩道を歩くというテーマでの丹沢登山もいいのではないのでしょうか。(本郷)



菰釣避難小屋

<参考まで>

神奈川県 東海自然歩道に関するホームページ

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/fl60396/p915567.html>

【神奈川県東海自然歩道 で検索】

箱根のシカ 箱根ビジターセンター

箱根で初めてシカに出会ったのは15年前の夏、夕暮れの芦ノ湖スカイラインをドライブしていた時のことでした。鹿の子模様の雌の成獣が、道路を横切って斜面を登っていきました。その力強い美しさにしばし見とれてしまったことを覚えています。

明治時代までは箱根にもシカが生息していましたが、その後100年近くその姿は確認されていませんでした。それが30年ほど前から再びその姿を見るようになりました。なぜでしょう？・・・それは、丹沢や伊豆などで増えすぎたシカがエサを求めて箱根に移動して来ているからです。



ビジターセンター周辺に現れたシカ

本来、一度姿を消してしまった野生動物が再び生息し始めることは喜ばしいことです。しかし、イノシシと共にシカはその数を爆発的に増やし、農林業や自然生態系のバランスに影響を与えていて、大きな社会問題になっています。

箱根の秋の風物詩「仙石原ススキ草原の銀の穂波」も「錦の紅葉」も自然のバランスが保たれているからこそ見ることのできる風景です。

生態系保全のため、箱根地域ではシカの生息調査・個体群管理の継続と、希少な植物群落を保全するための保護柵の設定が検討されています。(石原)



10月の仙石原ススキ草原